

ねん がつ
2015年2月

じゆ ごと
考古 No. 10

けんぱくものしりシート

きゆうせつき じだい せつき
旧石器時代の石器



ケンくん、ハクちゃんこんにちは。これらの石は石器^{いし せつき}といって、石^{いし}でつくられた道具^{どうぐ}なのよ。旧石器時代^{きゆうせつき じだい}（※）の中でも、3万年^{さん ばんねん}くらい前から使^まわれたものなの。



かいせつじん
解説員



ケンくん

いろ いろ かたち
色々な形のものがあるね。

（※）旧石器時代^{きゆうせつき じだい}：今^{いま}から約8万年^{やく まんねん}～1万2000年前^{まん ねん まえ}

ナイフ形^{がた}のもの^{だいひょうてき}（①）が代表的で、ナイフ^{ナイフ}のように物^{もの}を切^きったり、物^{もの}を突き刺^さすために使^{つか}ったりしたの。そのほかにも、動物^{どうぶつ}の皮^{かわ}についた脂肪^{しぼう}をこすり落^おとして皮^{かわ}を柔らか^{やわ}かく丈夫^{じょうぶ}にしたり（②）、骨^{ほね}や角^{つ角}に溝^{みぞ}を刻^{きざ}んだり（③）、斧^{おの}として木^きを切^きったり（④）、柄^えの先^{さき}につけて槍^{やり}として使^{つか}たり（⑤）と、さまざま種類^{しゆるい}があつたようね。旧石器時代^{きゆうせつき じだい}の人々^{ひと}は、その使^{つか}い方^{かた}にあわせて、自分^{じぶん}たちで石器^{せつき}を作^{つく}っていたのよ。



① ナイフ形石器 ^{がたせつき}	② 搔器 ^{そうき}	③ 彫刻刀形石器 ^{ちようこくどうがたせつき}	④ 打製石斧 ^{だせいせきふ}	⑤ 尖頭器 ^{せんとうき}
ナイフなど	スクレーパーなど	グレーバーなど	石 ^{いし} の斧 ^{おの} など	石 ^{いし} の槍 ^{やり} など



ハクちゃん

へえ、つく
作れるんだ！

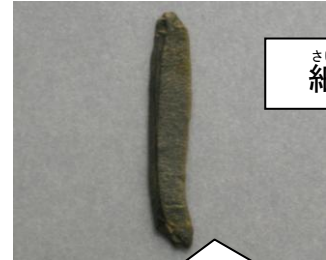
※ ← …… 刃^はの場所 …… → …… 先^{さき}の部分

図^ずの出典^{しゆつてん} 『早坂平遺跡発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004年・『峠山牧場 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書』1999年・『峠山牧場 I 遺跡 B 地区範囲確認調査報告書』1996年・『大渡 II 遺跡発掘調査報告書』1994年/『岩手県北上市和賀町愛宕山遺跡発掘調査報告書』岩手県立博物館 1993年

そうね。旧石器時代の人々が使っていた石器は、おもに、材料になる石のかたまりである「原石」をたたいて割れたかけらから作られたもので、「打製石器」というの。材料には主に「頁岩」や「黒曜石」などが使われていて、石器を加工するにはとてもすぐれた技術が必要だったと考えられるのよ。



昔の人は大変だったんだね。こっこの細かい石は、失敗した石器のかけら？



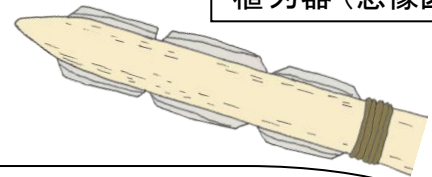
さいせきじん
細石刃

いいえ、これらもちゃんとした石器のなかまで、「細石刃」というものよ。この細かい刃を、植刃器とよばれる、骨などの両側に溝を掘って作った柄に埋め込んで使っていたようね。刃が欠けてしまったらその部分だけを交換するので、石器の原石をたくさん使わなくてすんだのよ。

この資料の大きさは、
ながさ 38 mm、幅 7 mm、
あつ 厚さ 3 mm です。



しよくじん き そうぞう ず
植刃器 (想像図)



すごいなあ、色々工夫をしていたんだね。



わたしたちが住む岩手県では、旧石器時代の遺跡が約130か所以上みついているの。狩りと採集を生活の中心として、石器を使いながら、大きな獲物を追いかけて暮らしていた旧石器時代の人々の暮らしがどんな風だったのか、これら石器の実物や使い方のパネルを見ながら想像してみてね。
また、体験学習室には、旧石器時代より少し時代が新しいものもあるけれど、手で触れることのできる石器があるので、ぜひ触ってみてね。



参考にした本 『図解・日本の人類遺跡』(財)東京大学出版会 1994年/『文化財を掘る科学の眼②石器・土器・装飾品を探る』国土社 1998年/『文化としての石器づくり』(株)学生社 2002年 他

らいげつ がつ
来月(3月)の
けんぱくものしりシートは
れきし
歴史-10だよ!
おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>